
桃色の花

まりも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桃色の花

【コード】

N3350C

【作者名】

まりも

【あらすじ】

一人の平凡な生活をおくっていた男の前に桃色の花と不思議な少女が現れ…

汗が滴り落ちるのがわかる。僕は汗を紺色のハンカチで拭った。僕は今営業で外を歩いている。僕には家族はいない。彼女も。欲しいとは思うもののこの人だという人に出会わない。特にこれといった趣味もない。幼い時から僕は運動能力、学力、全て平均的だ。そろそろ腹がへってきた。僕は昼を食べるために公園に入った。その公園は滑り台とブランコしかないどこか寂しい公園だった。

僕はベンチに腰をかけ、コンビ二で買った、おにぎりを口へと運んだ。

すると桃色の小さな花が目に入った。小さいがとても可愛い桃色だった。僕は思わず、笑みを浮かべた。

「その花：好き？」

可愛い子供らしい声が耳を通った。僕の目の前には真っ黒な髪でおかっぱの白いワンピースを着た小学校二年生位の女の子がいた。

「好きだよ。」

僕がそういうと女の子は嬉しそうに微笑んだ。

「君も好きかい？」

僕がそう言った時にはもう彼女はいなかった。

次の日、僕はまたあの公園へて向かった。そしてあのベンチに座り桃色の花を眺めた。するとまた彼女が現れた。

「やあ。」

僕は少し微笑んで言った。すると彼女は僕の隣に座った。

「あの花をみてるの？」

「そうだよ。」

そう言うと彼女は嬉しそうに微笑んだ。そして彼女はまたいなくなっていた。次の日、またあの公園に行き、ベンチに座り、あの花を眺めた。すると、また彼女が現れた。

「あの花を見てるの？」

「そうだよ。」

すると彼女はまた嬉しそう微笑んだ。

「あの花はきつと幸せだね。」

「えっ?」

「おじ…お兄ちゃんに見られて。」

彼女は笑顔で明るい声口調で言った。

「僕に見られて…?」

「うん!だってこの公園他に人来ないし、こんな小さな花だれも見ないもん。」

彼女の顔は少し寂しそうに口を重々しく動かしながら言葉を発した。

「だとしたらもつたいないね。こんな可愛い花なのに。でも、もう

一人、この花を見てる人…いるじゃないか。」

僕は少し微笑んで言った。

「えっ!?」

彼女は目を丸くして反射的にそう言った。

「君…。君もあの花を見てる。」

「私は…」

彼女はそう言う口をポカアンと開けたまま何も言わなくなってしまう。

「その花は君に見られて幸せだよ。」

彼女のほっぺは赤く染まっていた。

「違うの。私はその花自身なの…。」

「えっ!?」

僕がそういうと彼女はまた消えてしまった。彼女は何者なのか…。気になって僕は次の日もその次の日もいったが彼女は現れたなかった。てやがて桃色のあの花も枯れてしまった。

僕は会社の同僚にその話をした。

「その子…花の精だったりして…」

同僚の美恵子はワインを一口飲んでぼそりと言った。

「花の精?」

僕は思わず、目を丸くした。

「そう。花の妖精さん。都市伝説ってやつかな。その花を本当に好きになった人にだけ現れるだって。自分の一番の願いをきいてくれるとか。」

美恵子は目を細めてそう言った。

「へえー。美恵子、そういうの、信じるんだあ。」

僕はそう言って白ワインを一口流しこんだ。

「まさか。あなたの夢じゃないの？」

彼女がそう言っていると僕は少し苦笑いした。

「だな。」

だが僕は美恵子のような女性と出会えたのは、花の精のおかげだと思っっている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3350c/>

桃色の花

2010年10月12日04時31分発行